

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90244 (90233)	東洋芸術批評史研究 A (奇数年度開講)	2 単位 前期	1・2	講義	金 恵信

■テーマ アジア近現代美術の企画展

■授業の概要

1990 年代以降、日本の主に国公立美術館で開催された東アジア諸地域の美術企画展の中で、国際美術文化交流企画の性格を持ち、複数の地域の専門家・研究者の学術論文が収められている図録の中から、学術的、批評眼のある論考を取りあげて読む。

■到達目標

- ・東アジアの近現代を美術館の企画展を通して把握する。
- ・図録の論考を読むことで、美術展示を中心に展開する批評的論点と言説を考察できるようになる。

■授業計画・方法

1. 前提:美術館と美術展示 ―国民国家という共同体の中の美術館
2. 東アジアの近現代いう時代とそのイメージとしての美術
3. 1990 年代以降日本国公立美術館におけるアジア近現代美術企画展
4. 『「戦場」としての美術館』第三章を読む―批評家と美術館のことを考える前提として
5. 「90 年代の韓国美術から―等身大の物語」展(1996) 東京国立近代美術館他
6. 「還流 日韓現代美術」展(1995) 愛知県美術館／名古屋市美術館
7. 「アジアのキュービズム展―境界なき対話」展(2005) 東京国立近代美術館他
8. 「秘すれば花／東アジアの現代美術」展(2005) 森美術館
9. 「近代の東アジアイメージ」展(2009) 豊田市美術館
10. 「アジアをつなぐ―境界を生きる女たち 1984-2012」展(2012) 沖縄県立美術館・博物館他
11. 「官展にみるそれぞれの近代美術―東京・ソウル・台北・長春」展(2014) 兵庫県立美術館他
12. 「アジアにめざめたら:アートが変わる 世界が変わる」展(2018) 東京国立近代美術館他
13. アジア美術館という空間 「福岡アジア美術トリエンナーレ」 福岡アジア美術館
14. 「闇に刻む光 アジアの木版画運動」展(2018) 福岡アジア美術館
15. 授業のまとめ。定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・示される次のテキスト及び配布資料を熟読する。
- ・日頃積極的に美術展覧会を見て、作品について考えることを授業と並行して行う。

■成績評価の方法・基準

- 方法 レポート70%・平常点20%・コメントペーパー10%で総合的に評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
芸術文化科学研究科(博士課程)の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■教科書・参考文献(資料)等

□教科書

□テキスト

□参考文献

取り上げる展覧会図録

『「戦場」としての美術館―日本近代美術館設立運動／論争史』 朴昭炫著 ブリュック 2012